

2023年2月16日

かわさき若者会議の 概要と取り組み

環境分野の取り組みを中心として

かわさき若者会議
発起人 中野絢斗

団体概要

- 川崎市内で活動する、
25歳以下の若者プラットフォーム
- 「若者と若者を繋げ、
若者と地域を繋げる」ことが目的
- 現在120名弱が在籍。
ゆるく、楽しく繋がる活動を展開



団体概要

- 代表を置かず、年齢に関係がない、フラットな人間関係。
- 会費や定例活動もなく、第3の居場所としての機能
- 民間や行政とさまざまに連携し、市内全域で100以上の事業を実施



神奈川県川崎市

●麻生区

- ・こどもSDGsラボ運営協力
(麻生区役所、かわさきママのわ)

●多摩区

- ・トカイナカビレッジ見学
(松本傳左衛門農園)
- ・たまくおやこ広場(多摩区役所)

●市内全域

- ・川崎市長選挙における若者政策の提言
(日本若者協議会)
- ・川崎市長選の投票率向上プロジェクト
- ・川崎ワカモノ未来PROJECT運営協力
(川崎市役所、NPO法人カタリバ)
- ・川崎市環境局との意見交換会
- ・経済労働局とお土産創出プロジェクト
- ・川崎市シティプロモーション推進室との意見交換会
- ・備えるフェスタ運営協力(危機管理室)
- ・川崎市環境国際技術展への登壇・出展
- ・川崎市環境局との絵本出版
- ・市勢要覧 制作協力

●宮前区

- ・長沢フェス(長沢まちづくり協議会)
- ・宮前区おやこひろば(かわさきママのわ)

●幸区

- ・幸区地域課題対応事業「さいわい夏休み基地」
- ・防災セッション(幸消防署)

●川崎区

- ・小中学生の居場所づくり事業
- ・地域包括ケアシステム意見交換会
- ・かわさきパラムーブメント協力
- ・川崎夜市協力
- ・大師公園、見晴らし公園における実証実験協力

●高津区

- ・社会実験「たちばなフェス」運営(川崎市役所、地元企業)
- ・エルカジまつり開催(梶ヶ谷駅前通り振興会)
- ・かわさき野菜の若者マルシェ(eM Park、木村屋)
- ・川崎環境映画祭運営協力(地球温暖化防止推進センター)
- ・高津区協働事業(あおぞら紙芝居)運営協力
(紙芝居屋もっちい、高津区役所)
- ・たちばなストリートパーク運営(丸貞、みつや園など地元企業)
- ・キックオフイベント(大蓮寺)
- ・ノクチラボ、溝ノ口カレー見学

●中原区

- ・市政だよりプロデュース(中原区役所)
- ・まんなかフェス運営
- ・無印良品との連携
- ・富士通との連携

●全国

- ・若者サミット運営協力
(日本青年団協議会)

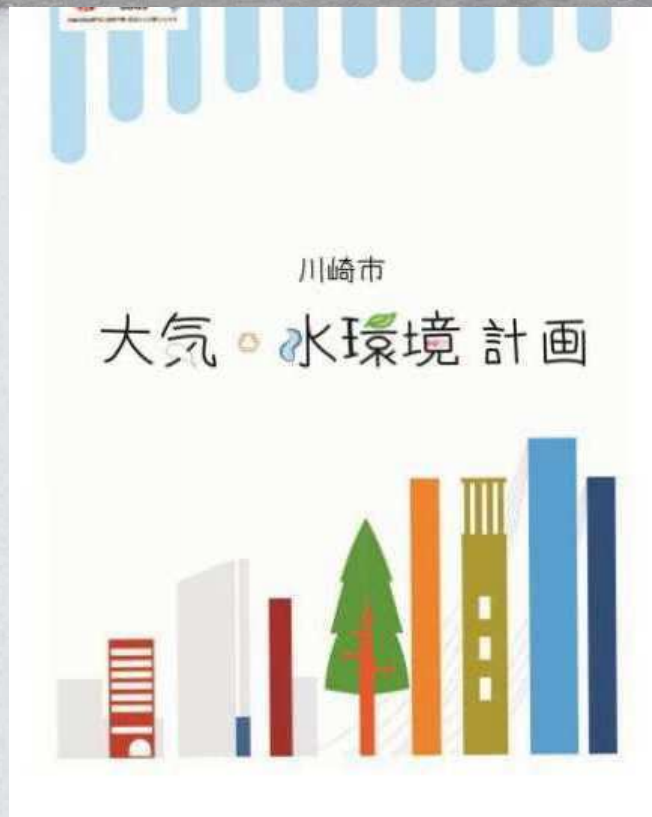


環境局との連携

- 川崎市環境局と連携し、
環境問題の啓発絵本を制作
- ストーリー構成や
キャラクター等を
かわさき若者会議が担当




「大気・水環境計画」の
表紙デザインも担当



高津区との連携

- 梶ヶ谷駅前通り振興会から相談を受け、
商店街イベントの企画運営に参加、
新要素として「エコ」を提案
- 高津区役所のご協力もあり、
水素カーや清掃車を展示





引き続き
地域×若者の視点で
取り組んでまいります

第55回車座集会

脱炭素アクション溝の口に向けて



川崎市総合教育センター
カリキュラムセンター
指導主事 山城祥二

子どもたちが環境を考えて行動した例

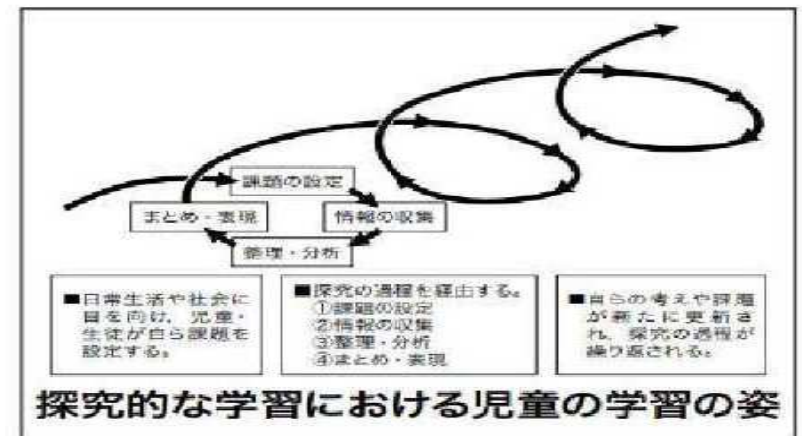
エネルギー環境子どもワークショップの発表において紹介された成果物等

- 使わなくなった衣服を再利用して作った手作りエコバッグ
- 小さくなったチョコレートを集めて作った手作りチョコレート
- ペットボトルキャップを再利用して作った手作りアクセサリー
- 豆苗などの繰り返し食べられる野菜の紹介

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

小学校学習指導要領
総合的な学習の時間
編解説 P 8～



次のとおりとは . . .

(1) 探究的な学習の過程において、**課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。**【知識及び技能】

(2) **実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。**【思考力, 判断力, 表現力等】

(3) 探究的な学習に**主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。**【学びに向かう力, 人間性等】

総合的な学習の時間で扱う学習内容

各学校の特色や実態に応じて
ふさわしい探究課題及び育成を
目指す資質・能力を

各学校が定める

環境問題に関わる探究課題の例

環境：身近な自然環境とそこに起きている環境問題

食：食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者

資源エネルギー：自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題

小学校学習指導要領

総合的な学習の時間編解説 P 73～

各学校の取組事例①

環境問題に向けて、自分たちにできることを考える

- 節電・節水の実施や呼びかけ
- 給食の残量を減らし、ごみを減らす
- 廃材を使ってものづくりに取り組む
- 森林の保全に向けての取組
- ビオトープの生態系を守る取組

〇〇小学校の実践



みんなにも
伝えないと！

大豆ミートを
使って、より環
境にやさしい！

給食の残量を減らす
ことは環境にやさし
いことにつながる！

給食の残量が多い！
どうにかしたいな。



各学校の取組事例②

環境問題に取り組む専門家を招いて、
実際の取組を学ぶ

- 地球温暖化防止推進活動推進センター
- 大学の先生方
- 里山を守る地域の方々
- 環境にやさしい食材の研究をする企業
など

かわさきカーボンゼロチャレンジ

学習を通して実際に行動を起こして取り組むことで、環境問題を自分のこととして捉えます。こうした活動が積み重なり、自ら主体的にSDGsに向かう人材が育成されていきます。



かわさきカーボンゼロチャレンジ

子どもたちがこうした活動をするここと、お家に帰って保護者の方に話したり、地域社会に向けて発信したりすることで、地域の方々の行動も変容していくことも期待できます

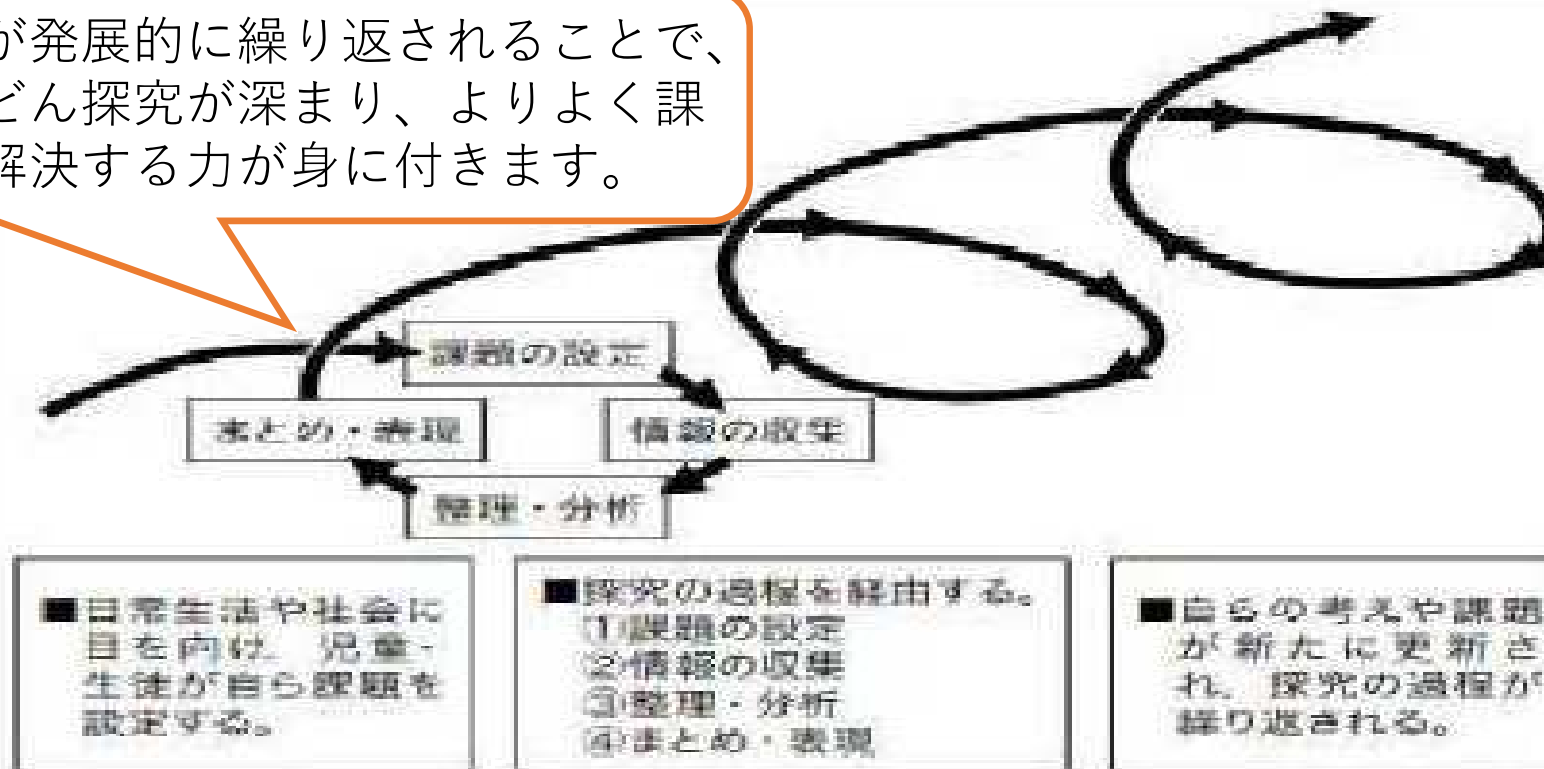


エネルギー・環境 子どもワークショップ



川崎市では、毎年開催され、各学校の取組を発表し合い、学びを広げる場となっています。互いに学びを交流することで、他の学校の実践を自分たちの活動に取り入れたり、新たな知識を得たりして、さらに探究的な活動になっていきます。

学びが発展的に繰り返されることで、
どんどん探究が深まり、よりよく課
題を解決する力が身に付きます。



探究的な学習における児童の学習の姿